

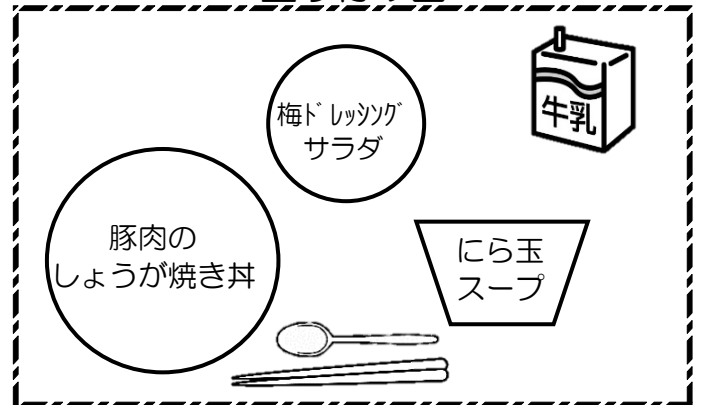
稲中ランチタイム通信

2月13日(木)

盛り付け図

今日の献立

豚肉のしょうが焼き丼
梅ドレッシングサラダ
にら玉スープ
牛乳



『にら』について

にらが生まれたのは、モンゴルの草原地帯だと言われています。そこで鍛えられたのは、^{きた}驚くべき^{おどろ}再生能力^{さいせいりのりよく}です。切られても、切られても芽を出します。一般的に植物の生長点^{せいちやうてん}は茎^{くき}の先端^{せんたん}にありますが、にらの生長点^{せいちやうてん}は生え際^は（地際^{ちざわ}）にあるので、葉を何度つんでも次々に芽が出てきます。これは草食動物に食べられることに対抗^{たいこう}して得た、生きるための手段だそうです。ただし、何度も葉を切りすぎると疲れ果ててしまうせいか、花が咲かなくなってしまうそうです。

先生からの食育コメント

にらは、一度植えれば手間をかけずとも何度も収穫できることから、別名「懶人草(らいじんそう)」といいます。懶人とは、なまけ者という意味です。条件さえ良ければ、10回以上も収穫できるそうです。